

議長
確認印

経済常任委員会会議録

1 日 時	開会 令和3年2月18日 9:30 閉会 令和3年2月18日 12:03
2 場 所	委員会室
3 出席委員	下重義人、藤田一男、吉田克則、菊地哲也、鈴木孝則
4 欠席委員	吉村守広
5 出席要求者	なし
6 職務出席者	議会事務局長、書記
7 説明員	まち振興課長、商工観光係長 農林推進課長、課長補佐兼農政係長、農政係主任技査
8 傍聴人	1名
9 付議事件	第1 竹活用施策の現状と今後の計画について 第2 観光交流事業の現状について その他
10 議事の経過	<p>委員長開会及びあいさつ</p> <p>第1 竹活用施策の現状と今後の計画について</p> <p>委員長：担当課長より説明を求める。 (農林推進課長が資料に基づき説明する)</p> <p>委員長：何か質疑はあるか。</p> <p>鈴木委員：竹パウダーブランドの野菜が、普通の野菜より高値で販売されているのか。仮に同じ価格であれば、生産者が増えていかないのでは。</p> <p>農林推進課長：道の駅で販売する際、目立つ場所に竹パウダーブランドをPRしているが、農家自身が販売価格を決定しておりなかなか難しい。</p> <p>主任技査：道の駅販売は価格勝負になるため、現状同じ価格か農家自身が設定する金額となる。希望としては金額差別化を図ってほしい思いがある。</p> <p>鈴木委員：生産者に価格決定として押し付ける状況を転換しなければ、生産者をカバーできないし、ブランド化につながらないので、さらなる行政側のバックアップ体制を構築すべき。</p> <p>農林推進課長：原点に立ち返りつつ、生産者の気持ちを汲みながら事業を実施していきたい。</p> <p>委員長：竹伐採地域の選定はどうなっているのか。</p> <p>農林推進課長補佐：協議会で受付をし、基本的に申し込み順となるが、緊急対応が必要な個所を行政側からお願いする場合もある。</p> <p>菊地委員：荒廃竹林伐採面積は年どのくらいか。</p> <p>農林推進課長補佐：年間3ヘクタール程度。</p> <p>鈴木委員：伐採優先順位について、申し込み順があると思うが、道路両側を行政側から優先的に伐採をする点を検討してはどうか。</p> <p>農林推進課長：災害が予測される場所については、優先伐採できるよう検討したい。</p>

吉田委員：整備した竹活用交流施設の利用率はどのくらいなのか。

農林推進課長補佐：平成 30 年度から利用開始され、研修ツアーなどで利用しているほか、地域おこし協力隊が同施設内を利用している。令和元年度以降は新型コロナの関係でほとんどなかった。今後は板庭地区から竹パウダー製造拠点を施設内へ移転し、令和 3 年度当初から稼働できるよう整備する予定。

吉田委員：施設は条例制定し利用料金を定めたが、計画と利用実績はどうだったのか。

農林推進課長補佐：会議室もあることから、竹に限定せず使用することや、行政としても使用したケースもある。なお竹活用推進の観点から利用料金を免除している事業があり、特段利用計画は策定していない。

吉田委員：竹活用推進協議会の組織自体はどのようになっているのか。

農林推進課長：後ほど構成員名簿を提出する。

委員長：竹活用施設を平成 30 年中に所管事務調査をした際に整備不十分としたが改善されたか。また次年度の事業計画は。

農林推進課長：施設管理不十分とあったが改善されているという認識。事業計画については、新型コロナ禍との兼ね合いで検討段階。ただ竹関連以外の会議も開催できる場でもあるため、様々な PR をしたいと考えている。

委員長：その他質疑が無ければ日程第 1 は終了する。

（農林推進課職員が退室し、まち振興課職員が入室する）

第 2 観光交流事業の現状について

委員長：担当より説明を求める。

（まち振興課長が資料に基づき説明する）

委員長：何か質疑はあるか。

吉田委員：モンベルタウン関係の事業効果は、徐々にみられる状況になってきているのか。またモンベル登録料の負担割合はどのようになるのか。さらに店舗登録に関する何らかの基準はあるのか。

まち振興課長：事業効果は、フレンドショップへの客足が伸びている実感はあるが、実数としては捉えていない。登録料の負担割合は 4 町村で均等割する予定。フレンドショップ 8 店舗は、冊子 1 ページに収まる程度の店舗数。仮に店舗数を増やすとページ増設対応で、単純に負担費用は倍になるので、冊子の掲載数は増やさず HP 等で追加負担なしで店舗数を増やす方向に力を入れたいと考えている。

鈴木委員：町内のフレンドショップでは、利用者が割引利用のため会員証を提示するはずで、利用者を捕捉しなければならないのではないかと。

まち振興課長：行政側からもカウントをするよう指導をしていなかったもので、次年度以降取り組みをして利用者を捕捉していきたい。

鈴木委員：モンベルフレンドタウンを全国的に見てみると、オートキャンプ場がある地域が該当しているように思えるが、埴町は今後自転車などを PR して観光客を誘致しようとしており、モンベル自体がアウトドア関連の企業であるため、埴町の考えるニーズと合致する取り組みなの

か。

まち振興課長：モンベルに資源調査をしてもらったところ、自転車の環境は絶賛され、登山の環境も埜から矢祭方面の国有林に観光資源のめどが立ち、マウンテンバイクを活用できる山も点在することから、今後アウトドア部門を仕掛けていきたいと考えている。

吉田委員：モニターツアーの費用負担は。

まち振興課長：宿泊代は自己負担となり、その他交通費や体験費用は補助該当となる。

委員長：サイクル関連の道路管理などは。

まち振興課長：県管理で委託事業となっている。

吉田委員：観光協会の宝くじ販売は収益事業に該当するので、補助対象にはなじまないのでは。

まち振興課長：宝くじ経費は補助対象外なので算入していない。

鈴木委員：新たな収益事業としてドウダンツツジ伐採を計画しているが。

まち振興課長：補助金だけでは観光協会は運営できないので、自主財源確保の中の一事業という位置づけである。

菊地委員：観光協会で働いている方の賃金は補助金から出ているのか。

まち振興課長：作業員分は整備事業補助金からで、その他職員分は観光協会補助金からという区分け。

鈴木委員：埜町のこんにゃく生産はあるのか。

まち振興課長：わずかではあるが生産している。今後維持できるよう農林推進課とタイアップも検討している。

吉田委員：米ではなく、こんにゃく海外輸出の理由はなぜか。

まち振興課長：実証段階であり、今後米輸出につながることを期待している。

菊地委員：東京都内への物販収支はどうか。

まち振興課長：規模により町内からの持参物を変えるので一概には言えないが、売れない時は経費倒れする場合がある。

吉田委員：サイクリングコースマップ周知方法は。

まち振興課長：主要な町内の飲食店へ配置し、また白河方面へも配置している。またウェブ配信についても積極的に検討したい。

委員長：その他質疑がなければ、日程第2は終了する。

（まち振興課職員は退室）

委員長：まとめとして、議会への報告は委員長一任とし、各委員からの報告書提出期限は2月末としたいがどうか。

（異議なし）

委員長：期限内での提出をお願いし閉会する。

委員長閉会

埜町議会委員会条例第27条の規定により署名する。

令和 年 月 日

経済常任委員長